

聖霊降臨第 15 主日礼拝説教要旨(9月14日)

『互いに愛し合う』 ヨハネの手紙一 4:7-12 早川 真牧師

神の本質、それは愛であって、その愛とは罪のゆえに命を失ってしまった人間をもう一度生かすため、ご自分の大切な独り子を苦しみと呪いと死の満ちる世に送り込むほどのものです。それほどに神は私たち一人一人が死ぬことを望まず私たち一人一人を価値ある者として見てくださっています。この神の愛は私たちがどんな人であるかに関わらず一方的に注がれている無条件の愛です。そしてこの神の愛によって互いに愛し合う者こそ神を知っている者なのだと言ハネは語っています。

神の愛は私たちがどうであっても愛する愛です。それは決して尽きることなく滾々と湧く泉のようなものです。神は本来、人間を互いに愛し合うように造られました。それは愛の源である神から流れ来る愛が他の人に流れゆくという形でした。しかしアダムとエバの出来事以来神から離れてしまった人間はこの愛の泉からも離れてしまいました。

そんな私たちの世に神の御子イエス・キリストが来てくださり、神としっかり繋がってこの世に神の愛を豊かに流してくださいました。そしてイエス・キリストを信じる者の内に、神は今も聖霊を通して神の愛を注いでくださっています。これはまるでカラカラだった井戸の水が再び豊かに溢れ流れるように、神の愛を流し出すものとされたということです。私たちが心を開いて神の言葉に信頼し、心の内にイエス・キリストを迎えるなら、神は私たちを日々新しく創造し、キリストに似た者に造り変えてくださると約束されています。私たちが互いに愛し合い続けることによって、私たちが生かすために世に独り子を送られた、その神の愛を証しすることができるよう、共に祈りをささげてまいりましょう。